

事業コード	H17-建-新-6		区 分	国庫補助	県単独
事業名	交通安全施設等整備事業		部局課室名	建設交通部 道路環境課	
事業種別	歩道等		班 名	道路環境推進班 (tel) 018-860-2488	
路線名等	一般国道107号		担当課長名	虻川 憲悦	
箇所名	雄物川町東里		担当者名	渡辺 博	
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり	
	施策コード	03	施 策 名	交通安全や地域安全対策の推進	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	歩道等整備率	

1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H22 (5年)		総事業費	9.0億円	国庫補助率	5/10	
事業規模	延長L=800m 幅員W=10.5m(1.0-6.0-1.0-2.5)						
事業の立案に至る背景	国道107号は岩手県大船渡市を起点とし由利本荘市(旧本荘市)に至る幹線道路である。また当該路線は、県南の都市間を結ぶ重要な路線となっている。当該地区には付近に小学校や保育所、公民館等公的施設があり、歩行者が多いにもかかわらず、歩道が狭いうえに連続性が無く、段差や路上障害物が点在している。また、冬場は既設の歩道が狭いことから、歩道除雪が出来なく、歩道の積もった雪のため車道を歩かなければならない箇所もあり、自動車交通量も4,000台超と多く、歩行者は常に危険な状態にさらされている。当該区間の整備により、国道107号の歩道整備は概成する。						
事業目的	交通安全施設の整備により、事故の減少、歩行者の安全を確保し、交通環境の改善を図る。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		900,000	30,000	100,000	250,000	520,000
	経費内訳	工事費	100,000				100,000
		用補費	700,000	6,500	95,500	238,750	359,250
		その他	100,000	23,500	4,500	11,250	60,750
	財源内訳	国庫補助	450,000	15,000	50,000	125,000	260,000
		県 債	180,000	6,000	20,000	50,000	104,000
その他							
一般財源		270,000	9,000	30,000	75,000	156,000	
事業内容			詳細設計 用地補償	用地測量	用地測量	歩道工	
調査経緯	なし						
上位計画での位置付け	総合計画における施策「交通安全や地域安全対策の推進」を支援する事業						
関連プロジェクト等	なし						
事業を取り巻く情勢の変化	当該区間は近年事故が発生しており、道路利用者にとって危険な状態である。 事故件数H10:2件 H11:2件 H13:1件						
事業効率把握の手法	指標名	歩道等整備率					
	指標式	歩道整備済延長 / 県道路延長					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有	無	
	目標値 a	38 %		データ等の出典	なし		
	達成値 b	35 %					
	達成率 b / a	92 %		把握の時期	平成17年 3月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	12時間自動車交通量が4,483台で学童・園児数が80人と多い。 計画区間前後に歩道があり、歩道の連続性がない。 また通学路指定区域であり早急な歩道設置が必要である。	20点
緊 急 性	本路線は、交通安全指定道路になっており交通安全上の重要路線である。	10点
有 効 性	事業が実施されることにより歩道が繋がり歩行者の安全性が向上する。	20点
効 率 性	事故状況は過去5年間の事故件数は1件であるが、平成10年以降では5件発生している。	15点
熟 度	雄物川役場より歩道整備への強い要望がある。	20点
判 定	ランク ()	85点
	全観点で高い得点となっており、交通事故を軽減し、生活の安全を確保する有効な事業箇所であり、実施すべきと考える。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留 各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度が高く、事業を実施すべきと考える。	

3. 総合政策課長の2次評価

総 合 評 価	選 定 改善して選定 保留
	歩行者の安全を確保する観点から、事業実施の必要性は認められるが、総事業費の8割弱を用地補償費が占めていることから、効率的・効果的な整備を図るため、全線同一規格による歩道整備ではなく、現状を生かした歩道規格や県と地域の連携による歩道除雪のあり方を検討すべきである。

4. 財政課長意見

意 見 内 容	選 定 改善して選定 保留
	当該路線は歩道が狭小であり、交通量も多く、住宅連担地域であることや小学校通学路として利用されていることから考え、住民の安全確保の観点から事業実施は妥当なものとする。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総 合 評 価	選 定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当であるが、用地補償費の縮減に努めるべきである。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 新規箇所評価
 適用基準名 交通安全事業（歩道）

事業コード(H17-建-新-6)
 箇所名 (雄物川町東里)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の利用状況				
	1 2 時間自動車交通量	1,000台/日以上	5	5	通学路以外の場合
		1,000台/日未満	0		
	歩行者交通量	500台/日以上	5	5	通学路の場合
		500台/日未満	0		
	歩道の連続性	100人/日以上	5	5	通学路以外の場合
		100人/日未満	0		
	歩行者・自転車交通量	学童・園児 40人/日以上	5	5	通学路の場合
		学童・園児 40人/日未満	0		
	道路幅員	計画区間前後に歩道あり	5	5	概ね500m以内
計画区間前後に歩道なし		0			
計	歩行者・自転車交通量	150人台以上	5	0	
	道路幅員	150人台未満	0		
緊急性	交通安全指定道路	車道幅員（路肩含む）5.5m以上	5	5	一方通行の場合3.5m以上
	交通安全指定道路	車道幅員（路肩含む）5.5m未満	0		
計			25	20	
	交通安全指定道路	指定あり	10	10	
	交通安全指定道路	指定なし	0		
計			10	10	
有効性	歩行者等の安全性向上				
	歩行者等の安全性向上	あり	20	20	
		なし	0		
計			20	20	
効率性	事故状況（過去5箇年）				
	事故状況（過去5箇年）	6件以上	25	15	
		1～5件	15		
	なし	0			
計			25	15	
熟度	地元ニーズ				
	地元ニーズ	文書要望あり	20	20	
		口頭要望あり	10		
	要望なし	0			
計			20	20	
合計			100	85	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		